

Top Message

ごあいさつ

新しい価値の創造とグローバルな成長を目指した
取組みに、継続的に注力し、社会と共に
歩んでまいります。

代表取締役社長

佐藤 廣士



株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

当上半期の業績について

まず、当社グループの第158期上半期(平成22年4月1日～平成22年9月30日)における取組みならびに連結業績についてご報告申しあげます。

当上半期のわが国経済は、景気対策の効果や、海外経済の改善を背景に、緩やかな回復基調が続きました。また、海外においても、中国で景気は拡大したほか、米国や欧州においても緩やかながら回復基調が続きました。

当社グループの経営環境を見ますと、国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことから、鋼材やアルミ・

銅圧延品の販売数量が、前年同期の水準を上回りました。また、油圧ショベルについては、需要が急拡大している中国市場で、需要の伸びを上回るペースで販売台数を伸ばしました。

当上半期の連結業績は、堅調な需要の取込みと、原材料価格の高騰に対応した製品価格見直しやコスト改善に努めた結果、売上高は前年同期に比べ1,338億円増収の9,220億円、営業損益は前年同期に比べ944億円増益の698億円の利益となりました。また、経常損益は前年同期に比べ935億円増益の493億円の利益、税引き後の当上半期の純損益は、前年同期に比べ747億円増益の294億円の利益となりました。

当期の中間配当について

当期の中間配当につきましては、今後の当社グループの成長のための資金の確保なども勘案しつつ、継続的かつ安定的な株主の皆様への還元という当社の配当に関する基本方針に基づき、1株につき1円50銭とさせていただきます。株主の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後の見通しについて

本年7月29日に発表した見通しに比べ機械事業部門でコスト削減が進んだことや、アルミ・銅事業部門で猛暑の影響によりエアコン向けの販売数量が増加したことなどから、当上半期の業績が増益となりました。その点を踏まえ、2010年度の連結業績見通しにつきましては、今回、連結売上高を1兆9,400億円から1兆9,100億円に、営業利益を1,050億円から1,150億円に修正いたしました。また、経常利益は750億円から800億円に修正し、税引き後の当期純利益は前回見通しどおりの450億円と見込んでおります。

「KOBELCO VISION “G”」の実現に向けて

足下の世界経済は、中国を中心とした新興国に牽引される形で回復基調が続いているものの、先進国においては、景気対策効果の減退や、欧州における財政危機の影響などが懸念されます。またわが国においては、いわゆるエコカー補助金の終了や家電エコポイント制度の見直しなど景気対策の縮小による影響に加え、当上半期からの急激な

円高が国内産業に及ぼす影響も懸念され、先行きの不透明感が増しています。

しかしながら、本年4月に発表した「中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION “G”』」で想定した“国内需要は総じて減少”、“海外需要が伸長”、“低炭素化社会に向けた変化”という中長期的な環境認識に変わりはなく、“グローバル市場における存在感”、“安定収益体質と強固な財務基盤”、“社会との共栄”という企業像に向けて、神戸製鋼ならではのグループ総合力を発揮し、具体的な成果をあげていくことが、これからの当社グループの課題と認識しています。

当期においては、グローバル市場での事業展開という点で、中国に新たに自動車用アルミ鍛造品の生産拠点を設立することを決定したほか、インド、中国でのクレーン事業拡大のため新たに生産拠点を建設することも決定いたしました。また、当社グループの競争力の源泉である「ものづくり力」を強化するため、本年4月に「ものづくり推進部」を設置し、様々な分野にわたる「ものづくり」を融合させ、グループ全体を底上げする取組みを開始いたしました。社会との共生という面では、チリ地震で被災した高炉の修復のため、当社の技術者の派遣を行なったほか、鉄鋼スラグを利用した海洋環境の改善に向けた取組みも進めております。

このように、新しい価値の創造とグローバルな成長を目指して、これからも継続的に全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましてはなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年11月